

## 臨床フレイル・スケール ( Clinical Frailty Scale)

	1	<b>壮健 (very fit)</b> 頑強で活動的であり、精力的で意欲的。一般に定期的に運動し、同世代のなかでは最も健康状態がよい。
	2	<b>健常 (well)</b> 疾患の活動的な症状を有してはいないが、上記のカテゴリ 1 に比べれば頑強ではない。運動の習慣を有している場合もあり、機会があればかなり活発に運動する場合も少なくない。
	3	<b>健康管理しつつ元気な状態を維持 (managing well)</b> 医学的な問題はよく管理されているが、運動は習慣的なウォーキング程度で、それ以上の運動はあまりしない。
	4	<b>脆弱 (vulnerable)</b> 日常生活においては支援を要しないが、症状によって活動が制限されることがある。「動作が遅くなった」とか「日中に疲れやすい」などと訴えることが多い。
	5	<b>軽度のフレイル (mildly frail)</b> より明らかに動作が緩慢になり、IADL のうち難易度の高い動作 (金銭管理、交通機関の利用、負担の重い家事、服薬管理) に支援を要する。典型的には、次第に買い物、単独での外出、食事の準備や家事にも支援を要するようになる。
	6	<b>中等度のフレイル (moderately frail)</b> 屋外での活動全般および家事において支援を要する。階段の昇降が困難になり、入浴に介助を要する。更衣に関して見守り程度の支援を要する場合もある。
	7	<b>重度のフレイル (severely frail)</b> 身体面であれ認知面であれ、生活全般において介助を要する。しかし、身体状態は安定していて、(半年以内の) 死亡リスクは高くない。
	8	<b>非常に重度のフレイル (very severely frail)</b> 全介助であり、死期が近づいている。典型的には、軽度の疾患でも回復しない。
	9	<b>疾患の終末期 (terminally ill)</b> 死期が近づいている。生命予後は半年未満だが、それ以外では明らかにフレイルとはいえない。

出典 : Morley J.E., et al.: Frailty consensus: A call to action. J Am Med Dir Assoc. 2013;14(6)392-397. 会田薫子訳.

\*このスケールは、Rockwood K らの研究報告を改編したものである。

(Rockwood K, et al: A global clinical measure of fitness and frailty in elderly people. CMAJ 2005;173:489-495.)

IADL; Instrumental Activities of Daily Living (手段的日常生活動作) : 日常的な動作の中でも、より頭を使って判断することが求められる動作